

電波時計について

●電波時計とは

正確な時刻情報[日本標準時]をのせた長波標準電波（JJY）を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。

日本標準時：日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。
この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」等により制御されています。

電波時計は正確な日本標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

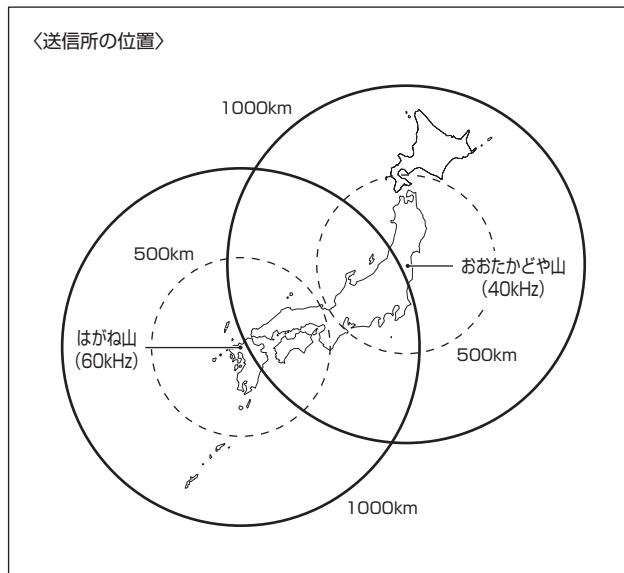
●標準電波

標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県田村郡の「おおたかどや山標準電波送信所」（40kHz）および佐賀県と福岡県の境の「はがね山標準電波送信所」（60kHz）から送信されています。
この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信中断されることもあります。

●電波の受信範囲の目安

条件の良いときは、送信所からおおよそ1000km離れた場所でも受信することができます。

- ただし、約500kmを超えると電波が弱くなるので、受信しにくくなることがあります。
- ※受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯（昼／夜）などによって受信できないことがあります。
- ※電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。
- ※一般的に送信所からの距離が近い方の電波が受信しやすいと考えられますが、電波環境や使用場所によっては、送信所からの距離が遠い方の電波が受信しやすい場合があります。



●電波受信について

本機は「おおたかどや山標準電波送信所」（40kHz）と「はがね山標準電波送信所」（60kHz）の2局より受信しやすい方の電波を自動的に選択し受信を行ないます（自動選局機能）。通常は毎日、電波受信を自動的に行ないます（自動受信）。

●使用場所について

本機は、テレビやラジオなどと同様に、電波を受信するものです。本機を使用するときは、「電波を受けやすい」部屋の窓際などでご使用することをおすすめします。

以下のような場所では、電波受信しにくくなりますので、このような場所は避けて本機をお使いください。



マンションやビルなどの鉄筋、鉄骨の建物の中およびその周辺（ビルの谷間など）
※但し、窓ぎわで使用すると受信しやすくなります。



高圧線、架線の近く



乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）



家庭電化製品、OA機器のそば、
金属板の上
（テレビ、スピーカー、FAX、
パソコン、携帯電話など）



電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそば、交通量の多い
ところなど）



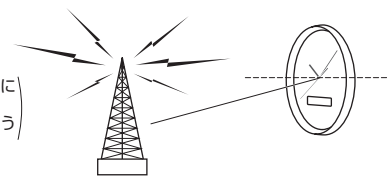
山の裏側…など

●正しく電波受信するために

- 電波受信できる場所でお使いください（「使用場所について」参照）。
- 本機を電波送信所方向に向けると、受信しやすくなります（本機に内蔵されている受信アンテナと電波送信所が垂直方向になると、最も受信しやすくなります）。

最も受信しやすい設置のしかた

- ・時計表示部または裏面を電波送信所に
向かい合うようにする
- ・金属板の上などを避けて窓際で行なう



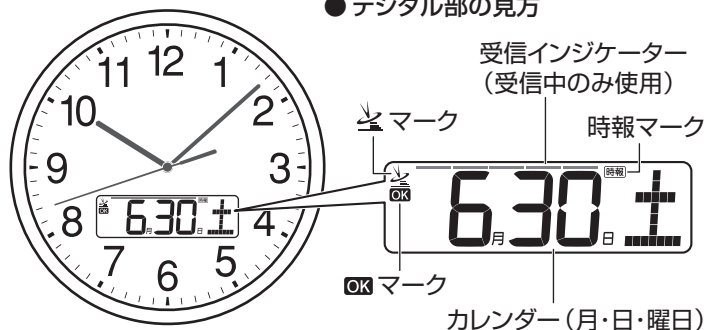
- ・受信中（受信インジケータ表示中）に時計を動かしたりボタン操作をしないでください。
- ・ボタン操作で現在時刻を修正すると、以後24時間自動受信は行ないません。ただし、この間に手動受信を行なうと、その時点で解除されます。
- ・電波受信を行なわない間は、平均月差±30秒以内の精度で計時します。
- ・電波障害により、誤った信号を受信することがあります。

各部の名称と表示の見方

機種によりデジタル部に「表示用シール」をつけて出荷しております。
ご使用前に必ずこの「表示用シール」を取り外してください。

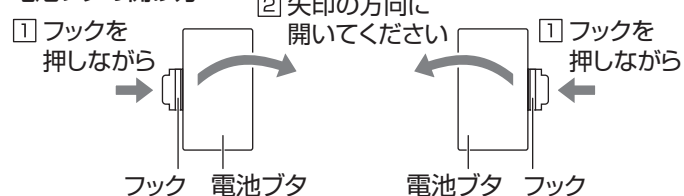
(表面)

● デジタル部の見方



(裏面) ● 電池交換のしかた

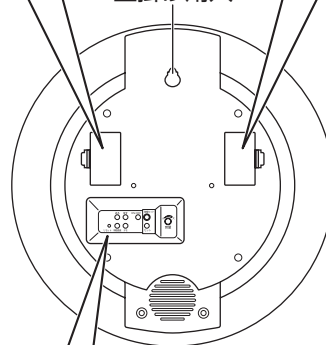
電池ブタの開け方



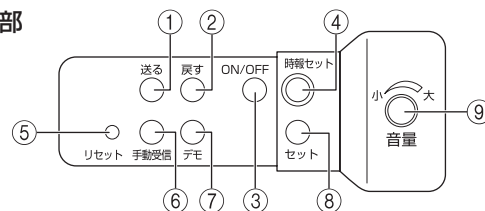
電池の入れ方



壁掛け用穴



スイッチ部



①ボタン(送る)、②ボタン(戻す)
現在時刻などを合わせるときに使用します。

③ボタン (ON/ OFF)
時報の ON / OFF の切替えができます。

④ボタン (時報セット)
時報を設定するときに使います。

⑤ボタン (リセット)
電池交換後、必ず押します。
※ リセット操作がしにくい場合は先端の細いもので押してください (製品を傷つけないようご注意ください)。

⑥ボタン (手動受信)
押すと電波受信を行ないます。

⑦ボタン (デモ)
押すと時報音をために聞くことができます。

⑧ボタン (セット)
現在時刻などを合わせるときに使います。

⑨つまみ (音量 大 小)
時報の音量を調整できます。

※図は操作説明用ですので、実際の製品とはデザインなどが異なることがあります。

はじめてお使いになるときは 1 (電池交換時もお覧ください)

「各部の名称と表示の見方」も一緒にご参照ください。

1 電池を入れリセット操作を行ないます (⑤ボタンを使います)

手順 1 電池ブタを開き、⊕ ⊖ の向きに注意して、電池を正しく入れます。

手順 2 ⑤ ボタンを押します
(電池を入れると動作を始めますが、そのままリセット操作をしてください)。

※ デジタル部とアナログ部が「午後 12:00 00」になり自動的に電波受信を開始します。

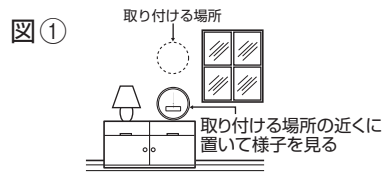
※ リセット操作が終わったら電池ブタを閉じます。

機種により付属の電池を製品に入れて出荷しております。この場合は、電池消耗を防ぐために、電池部分に「絶縁シート」をつけておりますので、ご使用前に必ずこの「絶縁シート」を抜き取ってください。

2 電波受信の様子を見ます (取り付ける場所の近くに置きます)

本機を取り付ける前に電波受信の様子を見てください。

手順 3 本機を取り付ける場所の近くに置きます (図 ①)。

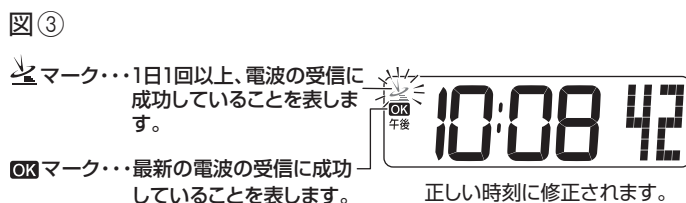


手順 4 取り付ける場所が電波受信しやすいかどうかを受信インジケータで確認します (図 ②)。



- 電波を受信中は受信インジケータで受信状態をお知らせします。電波を受信しやすいと多く点灯します (最大5個) (図 ②)。
 - 受信インジケータは使用場所を決める際の目安としてもお使いいただけます。
 - 1 回の電波受信は約 2 ~ 16 分間です。
- ※ 電波を受信中はボタン操作をしないでください (電波受信を終了します)。

手順 5 電波の受信に成功すると「OK」マークと「」マークが点灯します (図 ③)。



- 「OK」マークと「」マークは正しい時刻が表示されているかどうかの目安になります。
- ※  マークは、電波の受信に成功していても午前 2 時と午前 3 時になると一度消灯します。その後、電波の受信に成功すると再び点灯継続します。

● 受信できなかった場合

- ⇒ 数分後に電波の受信を終了します (そのままの時刻で計時されます)。
 - ⇒ 電波の受信終了後、場合により「時」「分」「秒」のみ修正されることがありますが (この場合、 マークは不灯)、その後電波の受信に成功すれば「月」「日」「曜日」も修正されます ( マークも点灯)。
- 上記のような場合は「電波を受信しにくい場合」をご参照ください。

● 1 ~ 2 週間電波受信の様子を見ます

電波受信は地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯 (昼/夜) などによって変わります。
1 ~ 2 週間様子を見ることをおすすめします。

- 「」マークが常に点灯している、または点灯している時が多い
⇒ そのまま、その場所でお使いになれます。本機を取り付けてください。
- 「」マークが全く点灯しない、またはときどきしか点灯しない
⇒ その場所では電波受信しにくいので、置き場所を変えてください。その場所を使用する場合はボタン操作で時刻を合わせてご使用ください。またときどき受信可能な別の場所で電波受信を行なってください。

はじめてお使いになるときは 2 (電池交換時もお覧ください)

3 本機を取り付けます

- 電波受信の様子を見た場所と取り付ける場所で、電波受信に差が出る場合があります。
- 時計を取り付ける場合、壁や時計を汚したり痛めることがありますのでご注意ください。

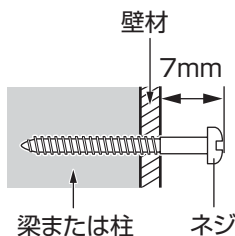
手順 6 ネジを壁に取り付けます (図 ④、図 ⑤)。

図 ④



取り付ける場所は部屋の照明があたる場所をおすすめします (図 ④)。

図 ⑤



ネジを梁を通っている壁面または柱にしっかりねじ込みます (図 ⑤)。

- 取り付ける前に壁の材質・構造をご確認ください。付属のネジは指定の場所 (梁、木の柱、木質の厚い壁) 以外に使用しないでください。指定の場所以外に使用した場合、落下によりけがをする場合があります (石膏ボード・コンクリート・薄い化粧ベニヤ板などには使用できません) (図 ⑤)。

手順 7 時計をネジに掛けます (図 ⑥～図 ⑧)。

図 ⑥

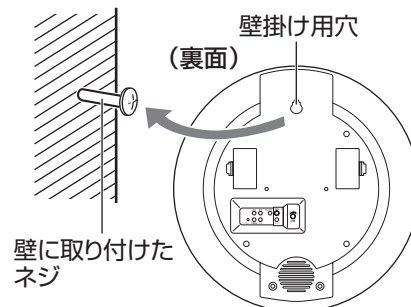


図 ⑦

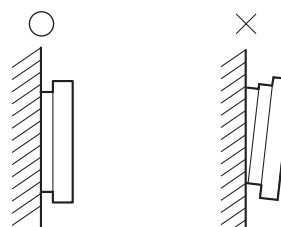
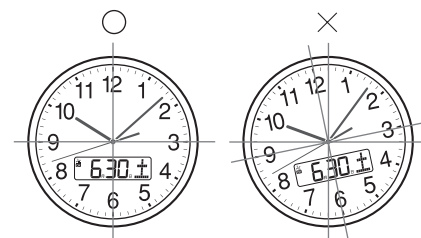


図 ⑧



- 時計を取り付けた際、上下左右そして手前に軽く動かし正しく取り付けられていることを確認してください。正しく取り付けられていない場合、落下によりけがをしたり、器物を破損する場合があります (図 ⑦、図 ⑧)。

電源に関するご注意

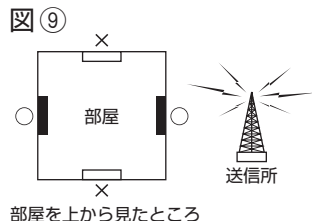
- 電池を交換する際は全部交換してください。
- 電池が消耗しますと一般的に以下のようなことが起こります。
このようなときは長時間放置せず、速やかに新しい電池と交換してください (定期的な交換をおすすめします)。
→ 誤動作 (時刻やアラーム等のリセット、報音の停止、時刻狂いなど) することがあります。
→ 液晶表示は「薄くなったり」「消えたり」します。
→ アナログ時計は「時計が遅れたり」「針が止まったり」します。
- 付属の電池は充電式ではありません。絶対に充電しないでください。
- お買い上げ時に付属している電池はモニター用電池 * のため、電池新品時の電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
* モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。

※ 電池が液漏れを起こした場合は液に触れずにすぐにふきとってください。

電波を受信しにくい場合

●電波を受信しにくい場合

場所によっては電波の受信がしにくい場合があります (図⑨)。
「使用場所について」もご参照の上、以下の方法を試してみてください。



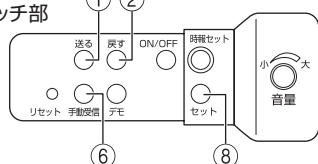
<方 法>

本機の向きや置き場所を変えて⑧ボタンを押してください (再度、電波受信を行ないます)。

●電波を受信しにくい状態がつづく場合

下記の手順で時刻を合わせてから⑧ボタンを押してください (図⑩)。時刻を計時しながら電波受信を行ないます。

図⑩ (裏面)
スイッチ部



1 セット表示に切り替えます (⑧ボタンを使います)

- ⑧ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります (図⑩)。

<通常表示>

例 6月30日 土曜日



<年セット表示> 例 2007年



- ・年セット範囲
2000年～2099年まで

⑧ボタン

<月・日セット表示> 例 6月30日



- ・曜日自動計算機能付き
フルオートカレンダー

<コントラストセット表示> 例 レベル3



- ・コントラストセット範囲
1低い←2→高い18

⑧ボタン

<時刻セット表示> 例 午後10時08分42秒



⑧ボタン

2 カレンダーや時刻等をセットします (①ボタン、②ボタンを使います)

- ⑧ボタンを押してセットしたい表示に切り替えます (図⑩)。
⇒各表示の点滅箇所がセットできます。

- ①ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が進みます。
- ②ボタンを押します・・・点滅箇所の数字が戻ります。

- ・<コントラストセット表示>ではデジタル部の表示濃度を8段階で調整できます。
- ・<コントラストセット表示>以外で、それぞれ押し続けると早送り/戻しができます。
- ・<時刻セット表示>のときにボタンを押して分を進めた (戻した) タイミングで00秒になります。

3 通常表示に戻します (⑧ボタンを使います)

- 通常表示に戻ったときに点滅は終了します (図⑩)。
⇒テレビや電話サービス等の時刻と照合してください。

※セット表示で何も操作しないと、約3分後に自動的に<通常表示>に戻ります。

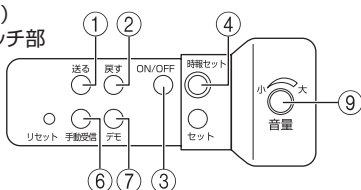
※1日に20回自動的に電波受信を行ないますが、セット終了後、24時間は自動受信を行ないません。ただし、この間に⑧ボタンを押して手動受信を行なうと、通常の自動受信状態に戻ります。

時報機能の使い方

●時報機能

任意の時刻にチャイムを鳴らすことができます。時報時刻は1分単位でセットでき最大12本までセットできます。会社などで、就業時間や休憩時間をセットして本機を使用すると便利です。時報音はウエストミンスターチャイムです。

図 ⑪ (裏面)
スイッチ部

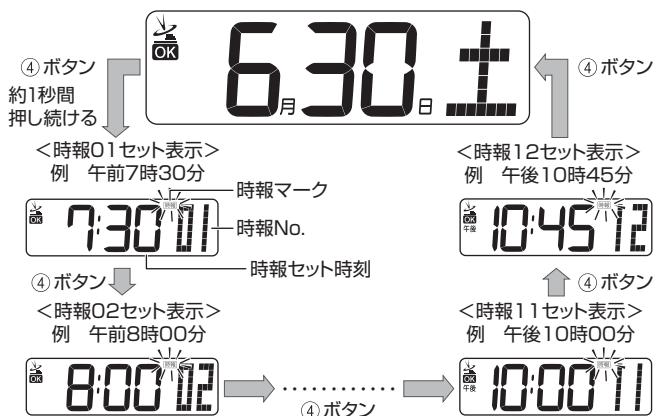


1 セット表示に切り替えます(④ボタンを使います)

- ④ ボタンを約1秒間押し続けます(図⑪)。
→ 時報マークが点滅し、セット状態に切り替わります。
→ ④ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります(時報セット表示は01～12の順で表示が切り替わります)。

<通常表示>

例 6月30日 土曜日

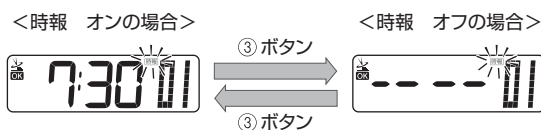


2 時報を鳴らしたい時刻を設定します(①ボタン、②ボタンを使います)

- ④ ボタンを押してセットしたい表示に切り替えます(図⑪)。
- ① ボタンを押します・・・時報セット時刻が進みます。
② ボタンを押します・・・時報セット時刻が戻ります。
- それぞれ押し続けると早送り/戻しができます。
- ① ボタン、② ボタンを押すと時報は自動的にオンになり、時報時刻を表示します。

3 時報のオン/オフを設定します(③ボタンを使います)

- 各時報セット表示で③ボタンを押すことにより、オン/オフ設定ができます(図⑪)。
- 時報のオン/オフ設定は、各時報 No. 毎に設定できます。



- 時報は1本でもオンに設定されている場合は通常表示で時報マークが点灯します。また全ての時報がオフに設定されている場合は時報マークは不灯となります。

4 通常表示に戻します(④ボタンを使います)

- ④ ボタンを押して<通常表示>に戻します(図⑪)。
→ 通常表示に戻ったときに点滅は終了します。
※ セット表示で何も操作しないと、約3分後に自動的に<通常表示>に戻ります。

●音量の調整

- ⑨ つまみを回すと時報音の音量を調整できます(図⑪)。

●時報をためしに聞くには

- ⑦ ボタンを押すと時報音が鳴ります。⑦ ボタン以外のボタンを押すと音が止まります(図⑪)。